

FUKUOKA

11月29日(火)

12:30開場 13:00開始

グランド ハイアット 福岡

福岡市博多区住吉 1-2-82

TEL : 092-282-1234

JR「博多駅」博多口
地下鉄「中州川端駅」5番出口
西鉄「福岡駅」
いずれも徒歩約10分



13:00-13:10 ご挨拶

自然災害への備え

暮らしを変えるIoT

13:10-14:25

未来に向けた免震技術



福岡大学
工学部 建築学科
教授
高山 峯夫 氏

わが国で免震構造が実用化されて約30年が経過します。その間にさまざま免震部材が開発され、戸建て住宅から超高層建築まで適用範囲は拡大してきました。最近では、3次元免震やセミアクティブ制御を利用した免震技術が登場しています。また、この間に免震建物は阪神淡路大震災、東日本大震災、そして熊本地震を経験しましたが、いずれの地震でも免震効果を発揮し、建物は無被害であり、建物機能も維持しています。本講演では、現在までの免震構造の発展を振り返り、これからの免震技術について考えます。

IoTと位置・空間情報サービスがもたらす未来像



名古屋大学
未来社会創造機構 教授
社会イノベーションデザイン学センター 副センター長
河口 信夫 氏

家電・自動車・電子機器など、あらゆるモノに通信機能や計測機能を搭載する「IoT」の盛り上がりにより、これまでは取得できなかったモノの位置情報やサービス提供が可能になり、新たな位置情報サービスの発展に期待が高まっています。本講演では、O2Oビジネスやオープンデータ/シビックテックなどで位置情報サービスの研究・開発から振興に至るまで幅広く関わってきた立場から、IoTと位置・空間情報をめぐる様々な技術・活用の紹介とともに、それらの発展がもたらす未来像と、そこに至るまでの課題について考えます。

14:35-15:50

頻発する異常豪雨と災害 —まさかの災害にどう備えるか—



九州大学大学院
工学研究院附属アジア防災研究センター
教授
橋本 晴行 氏

異常豪雨と言っても様々で、短時間の集中豪雨もあれば数日間連続して降る雨もあります。異常豪雨による災害はまさにシナリオなき災害と言っても過言ではありません。あらかじめ決まったシナリオであれば事前に備えて対応することも容易ですが、突発的に発生する豪雨への対応は困難です。従って、まずは過去の災害事例について調査し、教訓を見出すことが重要です。本講演では、最近の九州・山口の豪雨災害を事例として、災害の実態や人の避難行動、自治体の危機管理の一端を紹介しながら、豪雨時の対応のあり方を考えます。

IoT：企業におけるデータ活用イノベーション



福岡県中小企業診断士協会
理事
創業・経営革新研究会 会長
長柄 一夫 氏

【コーディネーター】

ビジネスにIoTを採用した企業において、どのようにデータを活用して事業のイノベーションが行なわれたのかを、宝石・コンタクトレンズ・民泊などの事業(予定)を展開する数社からリレー形式で事例を発表いただき、今後のIoT活用の方向性を探るとともに、その活動のヒントを提供します。聴講者の皆さんとともに、福岡発のIoTビジネスの活性化を図っていきます。

16:30-18:00

基調講演



東京大学
生産技術研究所
教授
最先端数理モデル連携
研究センター
センター長
合原 一幸 氏

数理工学：社会を支える数学

本講演では、実世界を対象にした社会を支える数学である「数理工学」の概要を紹介します。まずはじめに、制御理論と力学系理論の融合による複雑系制御理論、非線形ビッグデータ解析理論など数理工学の最近の発展について解説します。次に、その具体的な社会への応用事例、たとえば、数学に基づくがん治療、複雑システムの故障を事前に予測する動的ネットワークマーカー、脳、経済や地震などのビッグデータ解析、人工知能における動的情報処理の重要性などに関して説明します。

1977年 東京大学工学部卒業。1982年 東京大学大学院工学系研究科博士課程修了(工学博士)。東京電機大学助教授、東京大学助教授などを経て、1998年東京大学教授。JST ERATO 合原複雑数理モデルプロジェクト研究総括、内閣府/JSPS FIRST 最先端数理モデルプロジェクト中心研究者などを歴任。
現在、東京大学生産技術研究所教授、同最先端数理モデル連携研究センター長、同大学院情報理工学系研究科教授、同大学院工学系研究科教授。